

はじめに



データサイエンス教育研究センター長

笛田 薫

2年目はコースワークで身に着けた手法を活かして、修士論文に取り組みます。修士論文では、企業等の実際の課題を解決する研究成果や、データサイエンスの新たな手法の開発につながる研究成果が期待されます。

さらにこの4月には業界を代表するレベルのデータサイエンティストを育成する博士後期課程を開設しました。これにより学部から博士課程（「修士課程」は、これに伴い「博士前期課程」に改称）まで、国内最高水準のデータサイエンス教育研究体制が完成しました。

データサイエンスの技術的基礎はデータを処理するためのデータエンジニアリング（情報学）及びデータを分析するためのデータアナリシス（統計学）であり、これらの手法をさまざまな領域の問題に適用して新たな価値を生み出していくこと（価値創造）が必要です。このように、データサイエンスはすぐれて文理融合な分野です。このことは、本学のデータサイエンス学部生の構成や修士課程に派遣されている院生の派遣企業の業種にも反映されています。滋賀大学はこのような文理融合のデータサイエンスの理念を掲げて、学部から博士まで一貫した教育研究を推進していきます。

滋賀大学がおこなっている実践的な学部教育や企業ニーズに応える大学院教育には、産学連携が非常に重要な役割を果たしています。産学連携はデータサイエンス教育研究センターの重要な役割であり、企業等との共同研究の形で価値創造プロジェクト研究を積極的に進めてきました。共同研究の中から顕著な改善事例も得られており、本センターの共同研究がますます拡大しています。共同研究の企業連携などの数はすでに延べで150社を超えています。

この Data Science Viewは、このような学部・研究科・教育研究センターの2019年度における、社会の期待に応えるために進めてきている多彩な活動を紹介する年報として、編纂したものです。ぜひ御覧頂き、今後とも本センターの活動に御理解、御支援を賜れば幸いです。

このたび、センター開設以来、センター長として尽力されてきた竹村彰通データサイエンス学部長から交代し、その重責を担うことになりました。微力ながら尽してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、滋賀大学がデータサイエンス教育研究センターを開設してからこの2020年の春で5年目を迎えました。このData Science Viewも第4巻となります。

また、滋賀大学データサイエンス学部が続くように、全国でデータサイエンス関連学部の開設が相次いでおり、この分野はますます注目されています。そのような中で、滋賀大学は日本初というだけでなく、日本を先導する実際的な活動で高く評価されています。特に今年度は1期生が最終学年となり、卒業も目前となりました。データサイエンス学部からの初めての卒業生に対する企業からの注目は高く、第1期生が社会のさまざまな分野で活躍できると期待しています。

昨年4月にはこれも日本で初となるデータサイエンス研究科修士課程を開設しました。まだ学部からの卒業生がいない「前倒し設置」であり、大学院生の第1期生23人のうち19名は企業派遣となりました。派遣元の業種もさまざまであり、異業種交流やオープンイノベーションの場としてのユニークな修士課程が始動しました。院生第1期生は1年目に非常にインテンシブなコースワークをこなし、

2016年の春に開設したデータサイエンス教育研究センターの初代センター長に就任して4年間が経ちました。この間、産業界の皆様をはじめ、関係各位のご支援・ご協力により、我が国屈指のデータサイエンス教育研究拠点を形成することができましたこと、深く御礼申し上げます。

このたび、センター長を交代する運びとなりましたが、引き続き、滋賀大学データサイエンス教育研究センターに皆様の温かいご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



前データサイエンス教育研究センター長

竹村 彰通